

令和4年3月30日

沖縄県議会議長

赤 嶺 昇 殿

派 遣 議 員

団 長 照 屋 守 之

照 屋 大 河

「うるま市津堅島における米軍ヘリコプターの不時着に関する意見書」
及び「同抗議決議」の要請議員団報告書

上記のことについて、別紙のとおり報告します。

別紙

「うるま市津堅島における米軍ヘリコプターの不時着に関する意見書」及び
「同抗議決議」の要請議員団報告書

1 派遣議員

団長 照屋守之
照屋大河

2 派遣目的

令和3年第4回議会（定例会）の6月28日の会議において議決された上記の意見書及び同抗議決議の趣旨を関係要路に要請するため。

3 派遣期間

令和3年7月6日（火）及び9日（金）（2日間）

4 要請日程

別紙のとおり

5 要請概要

団長が意見書及び同抗議決議の趣旨を説明した後、原因を徹底的に究明しその結果を速やかに県民に明らかにすること、民間地上空での米軍機の飛行・訓練を中止すること、米軍所属軍用機の整備・保守点検体制を徹底的に見直してその結果を公表し実効性のある安全管理と不時着の再発防止に務めること、航空機騒音規制措置に係る夜間飛行訓練制限の厳格な運用を図ること、日米地位協定を抜本的に改定すること等について強く要請した。

6 要請における対応者の主な発言及び質疑応答の概要（要請順）

(1) 沖縄防衛局 局長 小野 功雄

本件は6月2日23時頃、米海兵隊普天間飛行場所属UH1ヘリコプター1機が、うるま市津堅島周辺の訓練区域で訓練を行っていたところ、警告ランプが点灯したことにより、島内の畑に予防着陸をしたものである。このような事案の発生は、周辺地域の住民はもとより、沖縄県民に米軍航空機等の運用に対する不安を与えることから、沖縄防衛局としては、米側に対して徹底的な整備点

検の実施及び安全管理の徹底等について申入れを行った。

米側からは、全ての同型機について飛行再開前に点検を確実に実施すること、今後も常に飛行前・飛行後の点検を詳細かつ確実に実施し、安全管理を徹底した上で飛行させることを確認している。米軍の運用に当たっては安全の確保が大前提であり、これまでも累次の機会に米側に対し、航空機の運用に当たり航空機騒音規制措置をはじめとする合同委員会合意を遵守し、可能な限り住宅などの民間地上空を避けて飛行するよう申入れを行っており、引き続き安全確保に万全を期すよう求めていく。日米地位協定については外務省の所管ではあるが、日米地位協定のあるべき姿を不断に追求していく考えである。

(主な質疑応答)

- Q これだけトラブルがあつて時間もたっているわけだが、民間地上空の一特に夜間訓練が行われているという現状は地域住民、うるま市、沖縄県にとっても非常に厳しいと思うがどうか。
- A 民間地の上空の飛行については、これまでも避けるようにということを申入れをしている。今回の件について、米側としては津堅島の上空を意図的に飛行するようなことはしておらず、一般的なルールとして海上飛行を選択しているとのこと。夜間飛行についても、例外的な運用があるにしても、22時までという騒音規制措置をしっかりと守って周辺への影響を最小限とするよう、改めて申入れをしている。
- Q 米軍の日常的な整備点検の問題として、具体的にどのように整備等がなされているのか、しっかり県民に公表する必要があるのではないか。
- A 繰り返しになるが、我々としても徹底的な整備点検と安全管理の徹底を米海兵隊太平洋軍基地司令官に申入れをしている。米側からは、全ての同型機について飛行再開前に点検を確実にやり、今後も常に飛行前・飛行後の点検を詳細かつ確実に実施し、安全管理を徹底した上で飛行させるとのことである。
- Q 今回はいち早く米軍関係者が直接津堅島に渡って、自治会長あるいはまた地域住民の皆様方におわびをして補償等についてももしっかり対応する旨を伝えるなど、これまでになかった対応と思われるが、どのような変化か。
- A 対応が変わったかは分からないが、米側も住民の皆さんに非常に不安を与えたということで、重大なものだと捉えたのではないかと思われる。
- Q 新局長は来たばかりであろうが、沖縄ではこういう事件・事故が繰り返されて、

何度も我々も県議会を代表して要請している。先ほどの夜間飛行の例外措置等についても、視点を置いて変えて厳格にしていこうということになれば、今後も収まらない。ぜひその点について取り組んでもらいたい。

A まさに米軍の運用に当たっての安全の確保は大前提であって、事件・事故はあってはならないものだと思っている。これまでもそうだが、防衛局として引き続き米側に対し安全確保に万全を期すよう求めていきたい。

Q 不時着と予防着陸という認識—県と米側、政府の認識はどうか。一步間違えば重大な事故になるということで皆さんが認識してもらわないと、予防着陸できたんだというような米側の認識に立っていたのでは、県民の不安は解消できない。ぜひその辺りも強く政府としての姿勢を持ってもらいたい。

A 今回の件は、警告ランプが点灯したことによる予防着陸というふうに我々も承知しているが、いずれにしても、米側に対しては徹底的な整備点検の実施と安全管理の徹底について申入れをしており、引き続きしっかり安全確保に万全を期すよう求めていきたい。

Q 米側は予防着陸、日本側は不時着あるいは事故。沖縄に駐留して今何十年になるのか。今米側と日本の側の認識や捉え方が違う、何で今さらそうなるのか。予防着陸、不時着、墜落の定義は何か。

A 予防着陸や緊急着陸の定義については一概には申し上げられないが、繰り返しになるが、米側のほうから、今回は警告ランプが点灯したことによる予防着陸との説明を受けている。いずれにしても、安全の確保が大前提であることについては、住民や地元の自治体の関係者や我々も認識は一致していると思っているので、引き続きその点について安全確保を図るよう求めていきたい。

Q 当事者であるが防衛局も沖縄県もアメリカも、しっかりと予防着陸とはこうだ不時着はこうだという定義で、共通の認識を持ってほしい。

A そこは米軍の運用に関わることでもあるが、我々としては予防着陸なのか不時着なのか等々、いろいろな言葉の定義というものが必ずしも確立されたものがあるわけではないと思っているが、少なくとも今回の事案については警告ランプが点灯したということで、事故を起こさないように安全に降りられる場所を探した予防着陸という説明を米側から受けているので、予防着陸というふうに申し上げている。ただ、今委員長がおっしゃったような点について、沖縄県側がどういう思いで不時着という言葉を使っているのかも含めて、我々のほうでもよくお話を伺ってみたいと思う。

(2) 在沖米国総領事館 領事 リチャード・ロバーツ

こうしてわざわざおいでいただき、地元の懸念や県議会からの御意見等を受けとることはとても大事なことである。津堅島及び全ての県民に対しおわびを申し上げる。

日米両政府の防衛に関する2国間の取決めに基づき米軍の運用がなされているところだが、今回の件について米海兵隊も真摯に受け止め、県民への影響や負担を軽減する努力をしている。今回の内容については東京の大使館及び本国の本省のほうにも伝えたい。

(主な質疑応答)

Q 米軍関係者が速やかに現地津堅島に渡り地元の区長等に謝罪を行っている点について、米軍の対応に何か変化があったのか。

A 米海兵隊として真摯に捉えている現れだと思うが、対応したG7のオーウェンズ大佐の心情までは分からない。

Q 我々も現場に足を運んで区長に会って話しを聞いてきたが、現場を中心として対応することはとても大切であり、日米お互いにそのような姿勢で協力できればよいと思う。

A おっしゃるとおりである。委員長からの発言は東京の大使館や本国に伝えていきたい。

Q 津堅島はニンジンで有名な小さく静かな島である。現地を見てきたが、そのような場所で物すごい轟音とともに米軍ヘリが降り立ったことを想像すると住民の恐怖は深刻であったと思う。そのような地元の住民の気持ちを想像していただきながら再発防止に向けて関係機関へ働きかけてほしい。

A 島民は相当な恐怖であったことと理解している。

Q 沖縄防衛局にも話したが、不時着、予防着陸、事故等の定義について関係機関の認識を一致させるよう米軍にも伝えて改善してほしい。

A 言葉の意味が共通認識になれば良好なコミュニケーションは難しい。明確な定義があるのか、クリアにできるのか、そのような要望があったことは伝えていきたい。

(3) 外務省沖縄事務所 特命全権大使 橋本 尚文

この件は、私も夜中近くに連絡を受け、当初から人的な被害はないと聞いていたが、やっぱり農地、住宅の近くに降りたっただけということで、そういう意味では恐らく住民の方々、本当に相当御心配、驚かれたことと思う。

我々の事務所としても、現場でのいろいろなやり取りや対応のフォローをさせていただいた。と同時に、当地のみならず東京チャンネルも含めた外務省として、今回のこの件について米側に遺憾の意を申し入れ、きちんとした原因究明を求めた。また、再発防止の対策、飛行前後の点検等の安全対策を徹底してほしい旨の申入れをしたところである。この件に限らず、夜間の騒音等の問題も含めて他の市町村から意見をいただいているので、いろいろなチャンネルとレベルで外務省として、米側に対し申入れをしていきたい。

(主な質疑応答)

Q 要求事項にも書いてあるが、特にこの津堅島の上空の夜間訓練が日常的に行われているということは容認できない。これに伴う今回の不時着である。

A 夜間の米軍機の飛行は、もともと夜の10時から翌朝6時までの合意があるが、訓練の事情でそれが守られないときも時々あることは承知している。現地の住民の理解を得るために最大限避けるような努力をしてほしい旨は、今回に限らず米軍に対して要求してきている。

Q 我々2人とも地元うるま市で、夜の騒音に係る苦情を受けている。この夜間訓練の取決めの例外が日常化し、こういうトラブルもその延長線上で起こることについては非常に厳しく対応する必要がある。あわせて、機器の点検も徹底してやるように外務省からも相当強く申入れをしてほしい。

A 夜間の訓練については、周辺の自治体のほうからも頻度が上がっているとの指摘を受けており、改めて米側に指摘し対応を要求しているところである。

Q 今回の件も夜11時頃で、そもそも規制措置が守られていない。機能や練度の維持のため例外的にとということもあるのだろうが、地位協定の中の合意事項としてそこは厳格にやる努力を米側に求めるべきである。また、全般的に最近では米軍の訓練が激化し、事件・事故がここ数年かなり増えているが、点検整備はどうなっているのか。米軍は毎日必ずやるやっているのであればなぜ今回のような事故が起こるのかと言わざるを得ない。外務省としても米国に強い姿勢で臨んでいただきたい。

A かかる趣旨はきちんと東京にも伝えて、引き続き申入れをしていきたい。

Q 今回は米軍も素早く津堅島に渡って区長に会ってわびているようだが、何か対応が変わったのか。

A 我々も常々米軍に対し、地元の理解と信頼が損なわれると訓練の実施も難しくなる旨をいろいろな局面で申し入れているところだが、そういうものが彼らの対応の中に具体的に現れるようになってきているのかとも思う。

Q 我々が不時着として抗議しても彼らは予防着陸だということになると、かみ合わないと思う。予防着陸、不時着、墜落等の定義をはっきりとさせて、米軍も防衛省も沖縄県もお互いに共有した上で議論して整理する必要はないか。

A 個人的な感覚では分かりそうだが、いろいろな定義の区別があるのかもしれない。問題点については東京にも伝えたい。

(4) 海兵隊太平洋基地 政務外交部長 ニール・オーウェンズ大佐

まずは津堅島の区長に会い、予防着陸で不安を与えたことへの謝罪と、現地住民から米兵に食事や懐中電灯の提供があったこと等に謝意を伝えた。今回は負傷者や機体の損傷等もなくよかった。今回の原因として、動力供給のバランスの異常を知らせるセンサーが反応した。メンテナンスでドライブシャフトを交換して安全な飛行が可能と判断した。この個別の機体に特化したもので同種の機体には影響ないと考えている。航空機等の運用についてはしっかりと点検を行っており、飛行の際は、最短の距離でありながら民間地や学校等の上空は飛ばないように飛行ルートを工夫している。

日米間の合意に基づく安全保障体制に関しては、しっかりと訓練を行うことで高い即応能力を維持しつつ地元の負担が最小限となるよう、両者のバランスに配慮しながら対応している。

日米地位協定の改定については、2国間における上位レベルで決めることなのでコメントできない。

(主な質疑応答)

Q 翌日には大佐自ら津堅島に渡って区長に謝罪をしているが、米軍側として何か対応の在り方が変わったのか。このような素早い対応は評価したい。今後も続けてほしい。

A 一番最初に島民の皆さんに御礼を言いたかった。ヘリ隊員への気遣い等に感謝

している。不安を与えたことに対しても申し訳なく思う。海兵隊と住民、司令官と知事の間を含め地元との関係が良好となるよう努力したい。

Q 予防着陸や不時着等の定義づけを整理して日米で共有し県民に示してほしい。

A 当方での今朝の会議でも議題となっている。予防着陸とは、パイロット達が気づいて予防のために行う行動で、機体は飛べるがリスクを抱えた状態であるため、より安全性を重視した判断で行う。不時着とは、機体が安全に飛べない状況で、速やかにどこに降りるかの判断を中心に行う。

Q 他の機体に影響はないと言いつつ、これまでも多くの事故が続いているのが現状である。普天間基地所属機ということで、隣接する地元住民の不安の声や過重な負担があることの現状を理解して、決められた制限の中で厳しく運用管理してほしい。

A 普天間基地周辺の住民が感じている懸念は理解している。訓練に関しては飛行前後にしっかりとメンテナンスを行っており、全ての訓練は日米の安全保障における即応体制を確保するためのものである。御理解願いたい。

Q 今回の津堅島に渡っての謝罪等大佐の行動を評価する。米軍と地元とのコミュニケーションは重要である。尖閣問題等をはじめ米軍の存在は大きな意味があると思うが、それであっても事件・事故の発生を認めるわけにはいかない。今後もお互いの存在を認め合いながらやっていかないといけない。

A 海兵隊司令官のクラディー中将をはじめG7としても地元との友好的な関係をととても重視している。

以 上

別紙

要 請 日 程

月 日	曜日	時間	要 請 先 等	場 所
令和3年 7月6日	火	11:15 ） 11:30	沖縄防衛局長 (応対者:小野功雄 局長)	沖縄防衛局 会議室
		14:15 ） 14:30	在沖米国総領事 (応対者:リチャード・ロバーツ 領事 〈広報・文化担当〉)	在沖米国総 領事室
		15:15 ） 15:30	外務省沖縄事務所長 (応対者:橋本尚文 特命全権大使 〈沖縄担当〉)	外務省沖縄 事務所会議 室
令和3年 7月9日	金	11:15 ） 11:30	第3海兵遠征軍司令官 (応対者:ニール・オーウェンズ 大佐 〈政務外交部長〉)	キャンプ瑞 慶覧内政務 外交部会議 室